

島しょにおけるがん医療 (前回意見)

(前回の調整会議でのご意見)

○抗がん剤の進歩やがんの早期発見で、がんの闘病自体が長期間になっている。数年間にわたって、抗がん剤を続けながら、人によっては働きながら、島で元の生活を送りながらという人が増えてきている。島しょ地域にはがん診療連携拠点病院がないが、島しょ地域でも整備してもいいのでは。

これまでは救急医療を中心に広尾病院にお世話になることが多かったが、頻度の低いがんや抗がん剤治療が長引く患者は、経験上広尾病院以外に送ることが多い。今後広尾病院にどういった形でがん治療をお願いしていくか、あるいは別の病院をお願いするのか。次回以降こうした議論もできればと思う。(青ヶ島)

○広尾病院での治療後、抗がん剤が必要な患者がいたが、島の診療所で抗がん剤の取り扱いをしたことがなく、当協会が、化学療法看護の認定看護師を島に派遣し、医師、看護師を含めて研修を行い、今も治療を続けている例がある。必要な際は、認定看護師等を派遣するので、連絡を。(東京都看護協会)

※前回会議での意見全体は参考資料1を参照

島しょにおけるがん医療

(テーマ1)

島しょの患者が内地でがん治療を行い、円滑に島に戻るまでに必要なこと

<キーワード>

○早期発見・早期治療に向けて必要なこと

○広尾病院との連携体制

○広尾病院以外の病院との連携体制(都立・その他の医療機関) など

(テーマ2)

島しょのがん患者が働きながら、又は島で元の生活を続けながら治療を行うために必要なこと

<キーワード>

○島しょでの在宅移行後の抗がん剤治療や緩和ケア など